



道後温泉別館 飛鳥乃湯泉



愛媛・松山と言えば道後温泉が有名だが、2017年9月26日、道後に市営としては33年ぶりの新しい温泉施設が誕生したのは、存じだろうか。その名も「道後温泉別館 飛鳥乃湯泉」。19年初めに予定されている道後温泉本館の保存修理工事を見据え、本館だけに頼らない新たな道後観光の目玉の1つとして建設された、道後で今、最もホットなスポットだ。

2012年、松山市は「松山市道後温泉活性化計画審議会」を設置し、地元の観光事業者や有識者と何度も議論を重ねながら「道後温泉活性化計画」を策定した。道後地区の回遊性を向上させ、100年先まで輝き続けるまちづくりを目標に、重点エリアである「椿の湯（※1）周辺」「本館・冠山周辺」「上人坂（※2）周辺」を段階的に整備していく計画だ。

[illegible]

道後温泉は、日本書紀にも登場し、日本最古“とされる温泉で、聖徳太子や斉明天皇が訪れたという伝説も

(※1) 椿をシンボルとした「道後温泉 椿の湯」は、多くの松山市民に愛される公衆浴場で、1953年第8回国体」が四国各県で開催されたときに建設された。2017年12月にはリニューアルし、飛鳥乃湯泉と回廊で結ばれた。

(※2) 時宗の祖一遍上人が誕生したといわれる宝蔵寺に続く坂道。



額田王が詠んだ万葉集に収められている和歌の一節である「熟田津」の海をイメージした砥部焼の壁画（女性大浴場）。1時間ごとに和歌の場面を再現するプロジェクションマッピングが上映される。



エントランスを入ると、空気を浄化する「ゼオライト和紙」を使った山門シェード(写真右)がある。正面階段には道後温泉のシンボル「湯玉」が和釘で表現されている(写真左)。



傷を負った白鷺が道後温泉を発見し傷を癒したという「白鷺伝説」を表現した伊予水引細工（個室休憩室）。

感性を刺激する愛媛の伝統工芸

ある。しかし、現在の本館が明治時代に建てられたことや、松山にゆかりのある坊ちゃん、夏目漱石、正岡子規などを想起すれば、自ずと「明治」のイメージが強くなり、日本最古の部分がうまく伝えられていなかった。

そこで、同じ道後というエリアのなかで、さまざまな時代を楽しめるよう、椿の湯周辺は飛鳥時代をコンセプトに、太古から続く道後の歴史を伝える場所として整備されることとなった。そのシンボルの役割を果たすのが飛鳥乃湯泉だ。

飛鳥乃湯泉で「太古の道後」をテーマに、道後にまつ

わる数々の物語を愛媛らしく表現するにはどうすればいいか……。白羽の矢が立ったのは、砥部焼や伊予水引など愛媛が誇る伝統工芸や匠の技だった。

脈々と受け継がれてきた伝統技術を使って、今までにない新しいものを生み出すという作業は、プロジェクトに携わった伝統工芸士にとっても挑戦だったそう。

試行錯誤を重ねて出来上がった作品は、観光客に愛媛の伝統文化や技術が持つ魅力を伝える一方、普段見慣れているモノの価値や新たな可能性を地元の私たちにも気づかせてくれる。「伝統×アート×最先端の技術」で訪れた人の感性を大いに刺激する飛鳥乃湯泉は、本館とはまったく違う魅力を持った外湯として、道後の新名所となっている。

最古にして最先端

取材を通して感じたのは、飛鳥乃湯泉は、プロジェクトに関わった松山市、地元商店街の方、道後の旅館事業者、伝統工芸士などさまざまな人たちの思いの結晶であり、関わったすべての方々がとても愛着を持っているということだ。

100年先まで輝き続ける場所を目指し、その歴史は今始まったばかり。歴史を刻むのは、これから道後を訪れる皆さんだ。最古の温泉と最高のおもてなしに皆さんも癒されてみてはいかがだろうか。

（いよぎん地域経済研究センター 川野 志子）

道後オンセナート2018 開催中

道後温泉は、大手旅行サイトの「おんな一人旅に人気の温泉地ランキング」で、2014年から4年連続で1位を獲得している。女性客が増えた背景には、道後温泉本館改築120周年の大還暦を記念して2014年に開催された「道後オンセナート」の功績が大きい。オンセナートとは温泉とアートをかけ合わせた造語で、会期中は、ホテルの一室や商店街などにさまざまなアート作品が設置される。

今年4年ぶりに開催される「道後オンセナート2018」のコンセプトは「アートにのぼせろ～温泉アートエンターテインメント～」。「のぼせる」とは「夢中になる」ということで、老若男女、観光客、地元民を問わず、温泉とアートを楽しんでほしいという想いが込められている。

会期は2019年2月まで。ぜひ、道後で温泉とアートにのぼせていただきたい。

夏目漱石の小説「坊っちゃん」を文字通り丸ごとホテルの一室に再現した「部屋本 坊っちゃん」
©SHIN SOBUE/Dogo Onsenart 2018



日本全国 県境・地域を越えた 「様々なビジネスニーズ」にお応えします！

このようなビジネスシーンでお困りではありませんか？



全国の地銀9行連携 「地域再生・活性化ネットワーク」について

経営基盤・営業エリアが異なる地銀9行が、様々な情報・ネットワークを相互に活用することで、地域経済の再生および活性化を図るために構築した広域連携です。

県境・地域を超えて活躍する(今後検討される)お客さまのビジネスニーズ等に対して、全国の各エリアをカバーする地域金融機関が連携・協力して対応していきます。

- ① 複数の地方銀行による資金供給(シンジケートローン・協調融資等)
- ② 他エリアの地方銀行のネットワーク情報を活用して、M&Aや事業承継における相手方情報をご提供
- ③ ビジネスマッチング業務にかかる他エリアの地方銀行のお取引先等をご紹介します



- 【注意事項】
- 本ネットワークは、協定書を締結した地方銀行9行の連携・協力に基づき運営されています。ご利用にあたり、お客さまのご要望・ニーズなど、必ずしもご期待にそえない場合がありますのでご了承ください。(個別具体的なソリューションのご提供を確約するものではありません。)
 - 本ネットワークのご利用を希望される場合は、お近くの取引銀行窓口までお気軽にご相談ください。(ご相談は無料です、但し、個別具体的なソリューションのご提供にあたっては、各銀行所定の手数料等がかかる場合があります。)